

倉敷市立南浦小学校 令和4年度 校内研究

1 研究主題

「自ら学ぶ力を育てる」
～算数科における授業・家庭学習の改善を通して～

2 研究主題について

昨年度は、算数科において「自ら学ぶ力」を育てるための考え方やその方法について研究を行ってきた。そして、本校では自己調整学習の考え方を基盤に「自ら学ぶ力」を、めあて・見通し・まとめの問題解決の各過程を自ら一貫して行うことができることと捉えた。また、「自ら学ぶ力」を育てる方法については、めあて・見通し・まとめの各過程において何をどのように考えればよいかといった思考の仕方を獲得させたり、その使用を促したりする手立てをとり入れた。その結果、授業中の教員の手立ての質や量に改善がみられ、児童も問題解決の各過程において自ら学びを進めていく姿が見られた。一方で、各教員によって授業中に行う手立ての質や量に違いがみられたり、全ての単元においてこれらの手立てを実施できたわけではなかったりしたという課題もみられた。

以上を踏まえ、本年度は、昨年度同様の取り組みを継続することにより、授業中に行う教員の手立ての量や質の向上、改善を目指す。また、昨年度の研究を発展させるために、「学び」そのものの範囲を広げ、授業中の学びに加え家庭学習での学びにも着目する。具体的には、家庭学習においても自らめあて・見通し・まとめを一貫して行うことができるよう、個に応じた家庭学習に取り組みさせる。そして、以上の取り組みを通して、児童の自ら学ぶ力を育てたいと考える。

3 めざす児童像

算数の授業や家庭学習において、自ら問題（目標）を見つけ、見通しをもって学習をし、それを自ら振り返ることができる。

令和4年度 研究の方針

○ 算数科における授業の改善

各過程	思考の仕方に関わる手立て	
	昨年度の成果	今年度の新たな取り組み
めあて 「問題の把握」	本時の問題を提示すると同時に、前時に学習したことと、違うことを確認する。(前時との比較)	何が新たに考えることか、何が新たに考えなくてよいことを検討し、解決すべき問題を焦点化する。(問題の焦点化) めあては、可能な限り問いの形式(〇〇するためにはどうすればよいか等)にする。
見通し 「既習事項の想起」	前時の学習を一度確認し、方法・言葉の意味などを復習する。	
見通し 「既習事項の吟味」	本時でも前時と同じ方法が使えるかを検討する。	自分が知っている形(基本形)に変換するために、何をどうすればよいか検討する。
まとめ	めあてと見通しを比べ、まとめる。	めあてと見通しを比べ、めあて(問い)に対する答えを記述する。
振り返り	思考の仕方(メタ認知的知識)に着目して行う。	

- 家庭学習の取り組み
 - ・家庭学習においても、めあて（目標）、見通し、まとめを一貫して行うことができるようにする。このために児童自ら個別の目標を設定できるようにする（例：小テストとの連動、単元テスト前のプレプリントのや単元実施前の習熟度確認テストの活用等）。
- 昨年度に引き続き、岡山大学の川崎弘作先生に外部講師としてご指導をいただく。